

インフラと 難民キャンプの改善



「私たちの家には、家族が集まったり、お祝いをしたりする
広いスペースがありません。私は地域の委員会会議に出席して、
私たちが望む事業を立ち上げて欲しいと訴えました。社会的な行事を行ったり、
子ども達が遊んだりできるような広場が欲しかったのです。このようにして
スペースの利用計画を立てています。素晴らしいプロジェクトです。」

—ウム・エラッド、ファワール難民キャンプ

インフラと 難民キャンプの改善

インフラ・難民キャンプ改善局（DICI）は、UNRWAに関するジュネーブ会議（2004）において設立されました。その設立のきっかけは、UNRWAが活動する難民キャンプ*に暮らす人々の悪化する生活に対処するよう求める声でした。UNRWAはこの局を通じ、コミュニティ主導型アプローチをとることにより、環境インフラ、UNRWA施設、シェルター、難民キャンプの改善、コミュニティ開発に関する戦略的・参加型の都市計画を中心に活動しています。2008～2009年の同局の予算は2,130万ドルです。



シュファット難民キャンプ（東エルサレム、ヨルダン川西岸地区）

難民キャンプ開発の概念は何が発端となったのですか？

- 過去60年以上の間、難民キャンプにおける都市の改良やコミュニティの開発に対して、難民キャンプの住人が企画を立てたり、実際に参加したりするという事は、ほとんどありませんでした。難民キャンプの形態は、暫定的なテントから、極度の貧困、急激な人口増、過密を特徴とした超過密かつ無秩序が拡大する都市へと変遷してきました。
- ジュネーブ大学（IUED）による最近の調査によれば、最も顕著な問題として、難民の生活水準が明らかに低下しており、難民キャンプの住民は身体的かつ社会経済的な環境によって困窮を深めていることが分かりました。

インフラと難民キャンプの改善局は、キャンプが恒久化する一因となりますか？

- そうではありません。2004年のジュネーブ会議ではUNRWA、アラブ連盟、ホスト国、パレスチナ人の諸団体を含むすべての関係諸機関は、「尊厳をもって生活すること」が人権であるという理念に基づき、難民の生活改善の時からという合意に達しました。
- 難民キャンプに対するいかなる改善策も、難民の帰還する権利に関する政治的決定を阻止・妨害するようなことがあってはなりません。参加型のアプローチは難民のニーズを確認する上での主要な推進力となります。コミュニティの同意がないままに改善策が実施されることはありません。

ジュネーブ会議以降、どのような対策がとられてきましたか？

- 2007年、インフラと難民キャンプの改善プログラムが、ヨルダン、アンマンのUNRWA本部で開始されました。
- この新プログラムに着手するため、欧州委員会の設立したパイロット・プロジェクトがシュトゥットガルト大学（ドイツ）と協力し、

- ヨルダン川西岸地区の3つの難民キャンプ（デヘイシャ、アマリ、ファワール）で開始されました。このプロジェクトは、難民キャンプの空間的、物理的、社会経済的な状況の調査を行い、難民がその空間および社会的なネットワーク、施設、そして対処方法をどのように利用しているかをより良く理解しようとするものです。
- UNRWAはその後、ヨルダン川西岸地区のヘブロンに近いファワール難民キャンプにおいて、コミュニティ主導型の企画を試験的に行いました。その過程において、住民が公共スペースを活用し、アクセスやインフラの向上などを含む独自の計画構想を考案することが可能となりました。
- 第一回パイロット事業に続き、この新たなアプローチをデヘイシャ難民キャンプ（ヨルダン川西岸地区）、タルビヤ難民キャンプ（ヨルダン）、ネイラブ難民キャンプ（シリア）およびナハル・エル・バレド難民キャンプ（レバノン）で実施するため、ドイツ連邦経済協力開発省（BMZ）から資金提供を受けました。

現地での具体的な変化として、どのような例が挙げられますか？

- ファワール難民キャンプでは、安全な遊び場や結婚式場など、住民による公共広場の利用を推進しています。また、広場までの道路も補修されています。
- ネイラブ難民キャンプでは、住民と共同で住宅を設計した後、基準に達しない住宅を修理しました。また公共スペースの設置も同様に、参加型の設計が用いられました。
- ナハル・エル・バレド・キャンプでは、欧州委員会がキャンプ再建のための評価企画部を設立するために資金を供与しました。この局のおかげで、住民は参加型プロセスに加わり、難民キャンプ再建のマスタープランの策定に関与できるまで成功しています。今ではコミュニティが完全に関与しています。

*ヨルダン、シリア、レバノンおよびパレスチナ自治区（ヨルダン川西岸及びガザ地区）

UNRWAについて

UNRWAは、ヨルダン、レバノン、シリア、ガザ地区、東エルサレムを含むヨルダン川西岸地区に住む約470万人のパレスチナ難民が、その苦悩に対して公正で恒久的な解決が見出されるまで、人間開発に十分な可能性を達成できるよう援助をしています。例えば教育、医療、社会サービス、コミュニティ支援、インフラと難民キャンプの改善、小規模融資、および武力衝突の際の緊急支援など、様々な人間開発や人道支援を行っています。また、UNRWAの役割には、パレスチナ難民が必要とする人権と保護のニーズに関する唱道・支援活動も含まれます。UNRWAの運営資金のほぼ全てがドナー国からの任意の拠出金で成り立っています。UNRWAの2009～2010年の通常予算は12億3,000万ドル。本部はガザシティとアンマンにあります。